

Libella りべら

持続可能な未来をみんなでつくる

vol.160
2022.10

りべら vol.160 2022.10

特集 気候変動と防災

- ・気候変動によって災害が増える!? 谷内 久美子…1
- ・地球温暖化と気候変動と地域防災 越山 健治…3
- ・防災教育の醍醐味 石原 凌河…5
- ・誰もが「助かる」防災まちづくり 石塚 裕子…6
- ・第9回『みんなで考えよう!にしよ防災カフェ』報告 多田 裕亮…7
- ・大阪市・西淀川区の防災の取り組み 東海 巧…8

忙中一筆 岸本 景子…9

連載:ぶらりとゆるりと西淀川めぐり…10

ただならぬ防災 多田 裕亮…10

あおぞら財団教育・研修事業紹介…11

あおぞら財団付属西淀川・公害と環境資料館エコミュージ

所蔵資料紹介 小田 康徳…12

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
〒555-0013 大阪市西淀川区千船1-1-1 あおぞらビル4階

〈表紙の作品〉
「絵が縫う」(中谷大知・廣田くみこ、2022)、2022年9月16日～20日に開催された西淀川アートターミナル(NAT)企画展「待合室」にて

あおぞらフォトギャラリー



3年ぶりの区民まつり。にしよ親子防災部で、ポリ袋雨ガッパづくりを行いました。(2022.09.17)



西淀川アートターミナル(NAT)の企画展「CANVAS CHALLENGE 03」。自由で多様な表現がなされたティッシュ箱が展示されていました(2022.08.25-29)



楽しく呼吸会は千住秀明先生をお招きして「自己管理」について学びました。息がしやすくなる方法を教えてもらいました。(2022.07.08)



おもしろいわ
西淀川



#おもしろいわ
西淀川



(@tomo_y_25)

「発見!遊歩道のきのこずかん」

とても丁寧とは言えないけど、見やすいし、人の目を引きそうな、なかなか秀逸な自由研究となったんじゃないでしょうか。たいへんよく出来ました #大野川緑陰道路 #きのこ



1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

【あおぞらビル】

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。(環境教育等促進法にかかる「体験の機会の場」認定施設)

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)/要事前電話予約

※いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

【会員・寄附募集】

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、
法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

【郵便振替口座】記号・番号:00960-9-124893/加入者名:あおぞら財団
【ゆうちょ銀行】金融コード:9900/店番:099/預金種目:当座
/店名:0九九店/番号:0124893/名義:あおぞら財団

【三菱UFJ銀行】歌島橋支店/普通/372858/財)公害地域再生センター
これまでご案内しておりました、三菱UFJ銀行と口座が変わっておりますので、ご注意ください。

りべら(Libella)はラテン語で「トンボ」と「自由」の意味をかけたものです。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

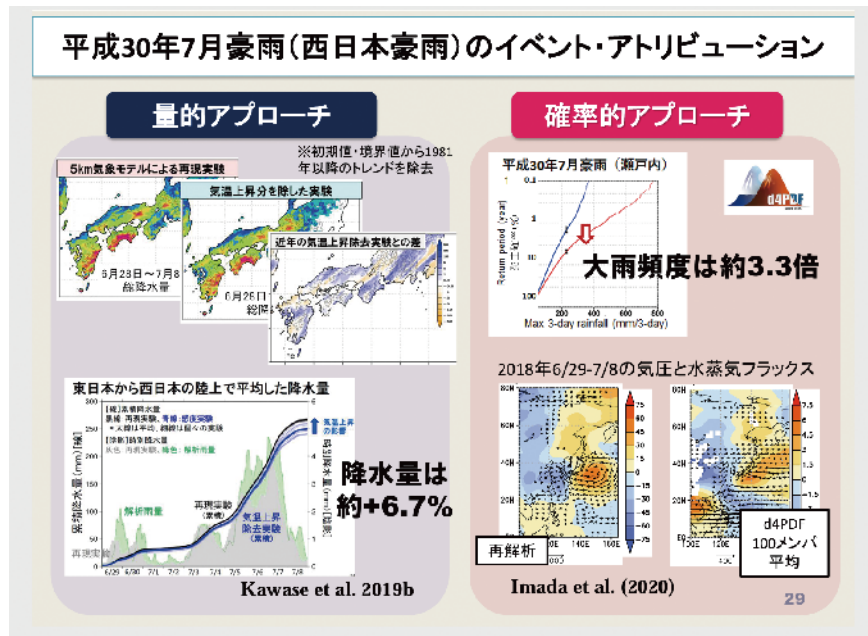
気候変動によって 災害が増える!?



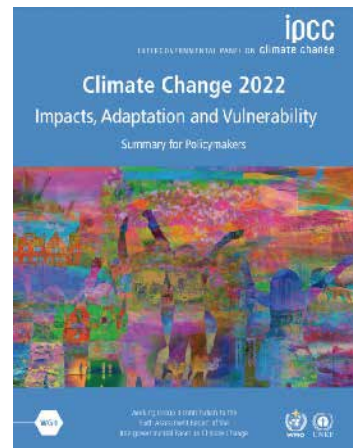
世界中の気候はすっかり変わってしまいました。

晴れの日には何となく機嫌がよかったり、あいさつ代わりに気候のことを話題に出すくらい、私達の生活と気候は密接な関係にあります。かつては穏やかに移ろう四季を楽しんでいたのが、今は危機に備える必要がある激しいものになりつつあるなど、私たちと気候の関係は大きく変わっています。

この特集では、気候変動(地球温暖化)に伴って、災害に対してどのような備えが必要なのかを考えてみました。



図：西日本豪雨は気候変動の影響で激化
出典：今田由紀子氏(気象研究所)「豪雨と気候変動の関係を探る『イベント・アトリビューション』」
https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/knowledge/r3kiko_koenkai.html



図：IPCC第2作業部会が公表した報告書
(出典：国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC))



地球が温暖化すると水循環のバランスが崩れる

石炭や石油などの化石燃料の大量消費に伴って、二酸化炭素等の温室効果ガスが増え、地球全体の気温が上がります。このままでは21世紀末には4度気温が上昇すると予測されています。

地球の気温が上がると、水循環のバランスが崩れます。大気中の温度が上がると空気中に含むことできる水蒸気が増え、大量の雨が降りやすくなったり、台風が強化しやすくなります。

気候変動によって自然災害は確実に増加

異常気象が増えているのは自然現象で、気候変動の影響とは必ずしもいえないのではないかと疑う人もいます。近年は人間活動の影響を評価する試み「イベント・アトリビューション(EA)」によって、異常気象と人間活動の関係の分析が進んでいます。国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第2作業部会が公表した最新報告書においても、EAの分析に基づいて、豪雨や干ばつなど異常気象の被害について「人間が引き起こした気候変動に起因すると判断されることが増えている」と記載されています。

EAでは、地球温暖化の影響を含めた状態で計算した「気候モデル」と、気候変動の影響を取り除いた状態のものを比較して、気

候変動の影響を見積もります。その結果、多くの自然災害で、気候変動の影響によって激化しているということがわかってきました。例えば、2018年に発生した西日本豪雨では、気候変動の影響により、降水量が6.7%増加、大雨頻度は3.3倍に増加といったシミュレーションがなされています。

「気候変動によって自然災害は増加」を裏づける研究結果が増えています。

みんなで守る！
みんなで助かる！



気候変動対策は、大きく分けて、温室効果ガスを減らす「緩和策」と、変化してしまった気候に対する「適応策」の2つがあります。

いずれも重要な対策ですが、「適応策」として防災にしっかりと取り組まないと人命が危機にさらされる時代になりつつあります。

「災害は忘れた頃にやってくる」というのも今は昔。毎年のように豪雨や大型台風が来襲します。災害を「まれに起こる不幸」と考えておびえて暮らすのではなく、災害を「生活の一部」として考え、普段の生活に防災を取り入れてはどうでしょうか？また、自分たちが住んでいる街はどんな災害が起こりやすいのか、誰に被害が集中してしまうのか、災害発生時にどんなことができるのか、要支援者を助ける体制はあるのか等を行政だけでなく市民や地域団体など多くの人々が一緒になって検討することも大事です。

「みんなで守る！みんなで助かる！」。命を守るための取り組みが必要とされています。

地球温暖化と気候変動と地域防災



令和2年7月豪雨災害の様子(阿蘇小国杖立方面)(熊本フリー写真無料写真「キロクマ!」)

が検討する方向性を「気候変動を踏まえた防災政策の導入」「自助や共助の意識向上」「高まる災害リスクに対応した防災・減災体制の整備」「新たなビジネスや市場機会の創出」「気候変動対策の加速」と書かれています。

日々を暮らしている私たちにできることは、主に意識の向上のところでしょ。そうする

と「災害を防ぎ、起きた時にどうするか」という従来の意識だけでなく、「日々の環境に適応し、防災力を維持するために活動する」ようなことも意識しなければなりません。

変わっていくのはハザード(自然現象)だけではなく、個人も、地域社会もです。日常的に備えができるような「個人力」「地域力」を持つことが必要です。からだに例えたら「日常的な体力づくり」のようなものです。

例えば、全国の災害の情報を「わがこと」として捉えて、思いをはせ、支援の気持ちを作り、もしもできるなら活動する、できなくても自分の周りに気をかけてみる、といったこころの運動が、実は自分や地域の防災力を維持するジョギングとなります。

科学でどんな自然現象が起こるかが予想できても、人が、社会が対策できなければ結局被害はでてしまいます。よく



関西大学教授:越山 健治(こしやま けんじ)

地球温暖化は100年で1度前後の上昇とした「ゆっくり」した動きです。またこれが気候変動に及ぼす影響は科学的にはまだよくわかっていないことが多く、ある人は危機を煽り、ある人は政治的であると批判し、ある人は嘘偽りであると論じています。全世界の気象現象に対して、これだけ右往左往し、ひとりひとりの認識も異なるものであることは、現代の情報化社会の特徴かもしれません。重要なことは、自分自身で冷静に理的に考えることです。

さて現実問題として、地球温暖化の影響かどうかは確かではないですが、近年ハザード(自然現象)が変化してきたことが指摘されています(極端現象)。日本では、大雨や台風、洪水などの水災害が頻繁に起きているように感じられるかも知れません。

しかし、よく考えると、地球規模の自然現象の変化より、私たち人間側の生活スタイルや

考え方、周辺環境の変化の方がずっと早いような気がします。人生で50年に1度の雨を2回経験するとして、最初が20歳です。ならば次は70歳となります。それはもう気候の変化より人や社会の変化の方が大きくなっている。50年に1度の雨が降ったからというハザードの理由だけで災害が起こるわけではないのです。

20世紀の日本では全国的に被害を防ぐための対策(ダム・堤防・治水など)が強力に実施されてきたので、水災害に対応する力や防ぐ力が高まり、この50年間で水災害の被害は減り、「めったに起きなく」なりました。しかしながら、今後は構造物も徐々に衰えていくし、更新することも難しくなります。つまり、人も年をとる、社会基盤も年をとっていくということなのです。

そこにはほんの少し気候変動の影響があることで、どの地域でも災害発生の危険性が上がっているようです。日本の



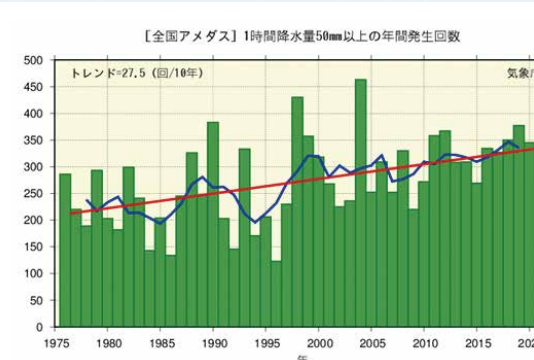
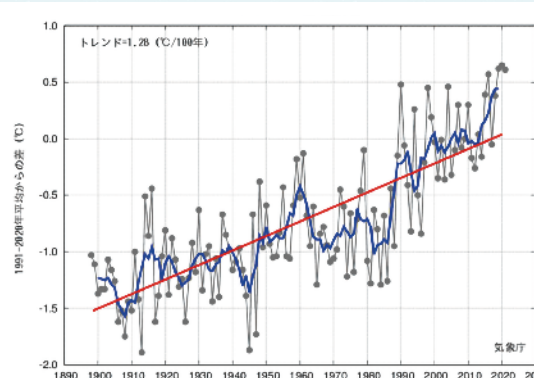
越山 健治

関西大学社会安全学部教授
1972年滋賀県生まれ。神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻修了。神戸大学助手、人と防災未来センター研究員を経て、2010年より現職。博士(工学)。

わかっていないのは気候変動よりも社会変動なのかもしれません。

最後に私の恩師の言葉「敵を知り己を知らば百戦危うからず」を考えてみます。災害対策は、敵となる現象を知り、同時に日々変化していく自分自身や地域社会といった「己」を知り続けることが重要ということだということです。

防災力を身につけることは、これで終わりという基準があるのではなく、変化していくなかで積み重ねていく過程なのかも知れません。



誰もが〈助かる〉防災まちづくり

大阪大学講師 石塚 裕子(いしづか ゆうこ)

災害が発生すると、高齢者や障害者、経済状況などによって社会的マイノリティの状態に置かれている人々に被害が集中します。早めに避難できれば、命は助かるはずの水害において、その傾向は顕著です。誰もが助かる地域にするには、従来の防災で言われている誰かが誰かを助けるだけではなく、助けられるだけでなく、みんなで「ああ、助かった」と言いあえる防災が求められています。取り組みのポイントは、誰もが〈参加する〉まちづくりを日頃から実践することです。一つの例として、兵庫県上郡町赤松地区で「まつり」が防災になっている事例を紹介しましょう。

赤松地区では、人口が減少し、高齢化率が40%近くなり、地域が縮退する中で、防災だけが地域課題でない状況でした。まちの活性化をはじめ害獣対策、防犯、環境維持、高齢者の見守りなど、まちづくりの課題は山積しています。そのような中で、地域が一番熱心に取り組んでいる「まつり」に誰もが参加できるよう取り組みました。

1年目は、まつりに参加していない、参加していたけれど最近では参加できなくなった高齢者がまつりに参加できるようにするためにどうすべきか考えました。その結果、名簿づくり→移動手段の検討→会場で

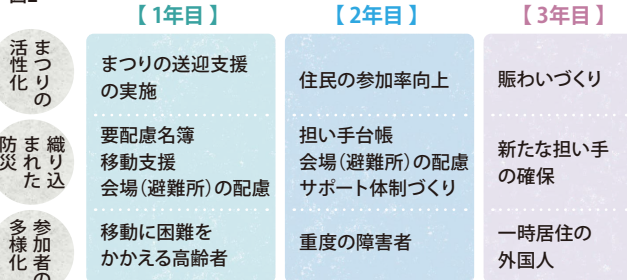
の配慮(トイレ等)の検討→参加の声かけ→おもてなし(カレーの炊き出し)の検討→実施という一連の取り組みが展開されました。これは、災害時避難行動要支援者名簿の作成、個別避難計画の策定、それに基づく避難訓練に類似していると思いませんか(図1参照)。そして2年目には、地区内に立地する重度の知的障害者のグループホームの居住者にも参加を呼びかけました。彼らは地区内に居住して10数年経つのに、これまで一度もまつりに参加したことがなかったことが明らかになりました。さらに3年目は職業訓練生として地区内に数年間居住している外国人にも声をかけて、まつりを盛り上げてもらうことになっていました(コロナ感染症の影響によって中止)。

図2で示すように、まつりの活性化をめざして取り組んだことが、地域の防災力の向上につながっていくのです。赤松地区の住民は、この経験から「避難先が楽しく(快適)でないといけない(声かけが難しい)」という気づきを得て、防災計画に「楽しい早めの避難」を位置付けました。そして一番大切なことは、誰もが〈参加する〉場を創っていくことが、誰もが〈助かる〉防災へとつながっていくことです。

図1



図2



参考文献：渥美公秀・石塚裕子編「誰もが〈助かる〉社会—まちづくりに織り込む防災・減災」新曜社、2021
石塚裕子・渥美公秀「縮退時代のまちづくりに防災・減災を織り込む—兵庫県上郡町赤松地区におけるアクションリサーチ、地区防災計画学会誌vol.18,2020,pp25-41.



プロフィール
大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター・講師、大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。
技術士(都市および地方計画)。専門はまちづくり、バリアフリー計画学



防災教育出前授業の様子



タイムカプセルを埋めている様子

防災教育の醍醐味

龍谷大学准教授 石原 凌河(いしはら りょうが)

筆者はいわゆる防災教育の専門家ではありませんが、徳島県阿南市の小学校で防災教育の出前授業を10年以上前から延べ40校以上で取り組んできました。防災教育を実践するたびに、防災教育の醍醐味や面白さを感じられることが、筆者を防災教育の実践に駆り立ててくれるのだと思います。筆者がこれまで取り組んできた防災教育の実例について紹介しながら、防災教育の醍醐味について考えていきましょう。

これまで防災教育出前授業を実施する中で、児童の防災教育の学びを介して家庭や地域住民などの周囲に対しても伝播するのではないかと考え、そのためには「大切な人」に向けて手紙を送ることが有用ではないかと想起しました。実際に、この取り組みを行ったところ、「手紙の読み手」(＝大切な人)に対しても防災意識の向上や防災対策を実現しようとする意志に繋がる可能性が高いことが示唆されました。児童からの手紙を読んで、手紙をもらった嬉しさや頼もしさを感じることが、防災への後押しにつながったと考えられます。このように人となりを伝えることができる手紙は、防災教育や災害伝承に関して高いポテンシャルを有すると考えます。

また、防災教育で学んだ知識を定着させることと、知識を実践に昇華させるために、タイムカプセルを用いた授業を展開しました。防災教育での学びを通して、

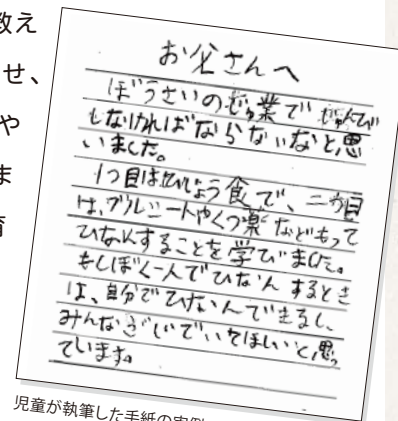
防災・減災 グッド・プラクティス

難しい課題が多い防災ですが、工夫をこらした先進的な取り組みをしている2つの事例を紹介します。



児童がこれから取り組みたい防災目標を手紙に書いてもらい、その手紙をタイムカプセルに入れました。約半年後にタイムカプセルを開封し、手紙に書いていた目標が達成できたかどうか確認しました。その目標の達成状況を踏まえて、再び未来への自分に向けた防災目標を発表してもらい、その内容を動画に収めました。動画は児童の家族にも視聴してもらいました。未来への自分に対する決意や目標を表明するタイムカプセルは、未来への災害に対して取り組みを促す防災教育と親和性が高いと考えられます。

防災教育の目的は「災害から命を守ること」で、そのための知識の獲得や技術の修得は欠かせません。しかしながら、防災教育は「命」という琴線に触れる営みだからこそ、学び手と教え手の双方を「本気」にさせ、学び手の「本気」が家庭や地域にも好影響を与えます。これこそが、防災教育の醍醐味であり、防災教育を考える上での重要な視点だと考えます。



児童が執筆した手紙の事例



プロフィール
龍谷大学政策学部准教授。
大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。
専門は地域レジリエンス(地域防災、災害復興、持続可能な都市・地域再生)。

をタイムラインに記入し、シミュレーションしてもらいました。

この災害タイムラインは家族の約束。いざという時どこに逃げるか、どうやって連絡を取るのか決めておくことで迅速に安全を確保できる道標となるものです。

ぜひ、防災カフェに参加されなかったこれを読んでくださっている皆様にも事前に避難場所などを家族と話し合っ

て決めておいていただきたい

と思います。

そうやって今年も無事大功に終わった防災カフェ。回を重ねるごとに徐々に次の南海トラフ巨大地震が迫っていると感じています。前回南海トラフで巨大地震が起きてから今年で76年。南海トラフ巨大地震はこれまで90〜150年の周期で発生しています。それに南海トラフ巨大地震が迫ると阪神淡路大震災のような直下型地震も増えると考えられています。防災カフェに参加できなかったそ

第9回『みんなで考えよう！にしょど防災カフェ』報告

大阪防災プロジェクト：多田 裕亮(ただ ひろあき)

※プロフィールはP10参照



去る8月4日、西淀川区役所で第9回にしょど防災カフェ(以下防災カフェ)が開催されました。毎年、西淀川区子育てを応援する担い手育成・地域連携事業のひとつとして、西淀川区役所が主催し、防災に関わる地域のさまざまな団体・個人が連携しながら実施しています(参加者数47人、受託事業者・NPO法人にしょどにこネット)。ご参加くださった方、誠にありがとうございました。

今年のテーマは「南海トラフ巨大地震」。今一番よく聞く地震の名前だと思っています。実は防災カフェに先立つた5月のボランティアエキス泊において、防災に関わるクイズを行っていました。そのクイズの中に「南海トラフ巨大地震が起きた時、西淀川区には何分で津波がやってくる？」

という問題がありました。その問題、ダントツで正解率が悪かったのです。

筆者は防災士で防災関係のお仕事をさせていただいています。その中で肌感として、どうしても「南海トラフ巨大地震」という名前が一人歩きしてしまっている感があるのです。みんな甚大な被害が出るであろう事はなんとなくわかって

いる。でも具体的にどんな災害か知らない。そんな状態なのではないでしょうか？

他の区の話になりますが、南海トラフ巨大地震の被害予想のインパクトで気持ちが折れてしまい、避難を諦めている人がいました。しかし、批判を恐れず敢えて言いました。大阪にいて南海トラフ巨大地震の揺れを生き延びた人が、津波で亡くなるのは非常に残念なこと

です。

だって津波到達まで約110分(地域によりです)あります。一応西淀川区においては災害時避難場所や津波避難

ビルは人数分確保されています。それで津波に巻き込まれてしまうのは悲しいことです。

そんな事があり、今回の防災カフェは南海トラフ巨大地震とは何者か、基本の基本からもう一度おさらいし、「正しく恐れる」ことを目指しました。

そして立ち上がった企画が「110分タイマー」です。防災カフェが2時間あるのを活か

し、地震発生から西淀川区に津波が到達する110分を実感してもらおうというものです。

まず、開始と同時に緊急地震速報を鳴らしタイムースタート。その後、大津波警報音も聞いてもらいました。そして開催中も、「今、津波は〇〇あたりに到達しています」というアナウンスを行い津波がどれくらいのスピード感でやってくるのかを実感してもらいました。

講座の内容も南海トラフ巨大地震が起こる仕組みや具体的な被害予測、備え方を解説し、その後実際にどう動くか

のあなた、ちょっと不安になりますよね。

でも大丈夫！西淀川区にはこれからも防災まちあるきや防災イベントなど防災を楽しく学べる機会がたくさんあります。ぜひ、ちょっとしたことから防災へ一歩踏み出してみ



防災カフェの様子はグラレコで記録



防災カフェちらし

大阪市・西淀川区の防災の取り組み

地盤が低く海拔0メートル地帯が多い西淀川区では、室戸台風(1934年)・ジェーン台風(1950年)・第二室戸台風(1961年)の3つの強力な台風の高潮により甚大な浸水被害を受けた過去があります。2018年の台風21号は第二室戸台風時の高潮の潮位を上回るものでしたが、防潮堤の整備・鉄扉の閉鎖により浸水を防ぐことができました。しかし、気候変動により大雨の発生数の増加・台風が大型化している可能性があると言われており、今後、過去に例のない大雨や巨大台風が発生し、再び西淀川において浸水被害が起きる可能性は否定できません。



避難訓練の様子

大阪市ではそのような大雨・高潮や地震による津波などの水害が起きた際に、市民のみならず



津波を想定した避難訓練

安全を確保するために民間の施設にも協力を依頼し「津波避難ビル(水害時避難ビル)」の確保を進めています。また、西淀川区では毎年11月第3日曜日に区内14地域一斉防災訓練を行っており、その中で水の災害を想定して町会ごとに津波避難ビルに垂直避難する訓練があります。この訓練を通して「地域みんなで災害から助かる」という共助の意識を地域に根差していきたいと思っています。

ぶらりと
ゆるりと

西淀川めぐり

やさしい味の個性派パン屋
今回はおいしくてやさしい味のする個性的な
パン屋さんを紹介します。

イラスト：とりやま ひろこ

富士製パン工場

お総菜パンが人気のパン屋さん。
天然酵母と北海道産の国産小麦、
栄養価の高い雑穀の一種

「アマランサス」を使用したパンです。
ひじきや、ちくわを使ったお総菜パン、ハムチーズなどの
パーガーが大好評。なんと言っても驚きなのが種類の多さ
です。約30種類のパンがお店に並んでいます、1種類に
つき1個から3個しか売っていないのでお目当てのパンが
あれば超ラッキーです！
全種類制覇を目指して是非、お店に行ってみてください。
不定期ですが、あおぞら市にも出店されています。⑦



住所：大阪市西淀川区御幣島2-12-12
フジディアミュリッヒ102
営業時間：木、金10:00～20:00
定休日：不定休(FBでご確認ください)
TEL: 06-6471-1394
FB: <https://www.facebook.com/fujipanf>



べえかりい風

風の子そだち園の活動の
一環としてあるパン屋さん。
国産小麦などをつかった無添
加の安心できるパンやお菓子を製造して販売しています。
作っているのは、パン職人さんと風の子そだち園の利用者
さん達。利用者さん達の個性や好奇心を生かし、可能性が
広がるように、パン作りを始めました。
商品開発は利用者さんの意見を聞きながら決めています。
例えば、お庭で金柑が採れると「ジャムにしたら」「パンに
入れたらおいしそう」といった話し合いの中で、新商品が
開発されてます。区役所やイベント等にも出店しています。
風の子そだち園の思いが詰まったやさしい味のパンを食べ
てみてください。⑥



住所：大阪市西淀川区姫島6-3-5
営業時間：10:00～16:00
火・木(パン、クッキー)、月～金(クッキーのみ)
定休日：土日祝
TEL: 06-6475-7325
Instagram: kazekoubou



新連載

「ただならぬ防災」

西淀川で防災に奮闘している多田君による防災エッセイ



今年も台風シーズンがやってきました。原稿を書いている9月初旬でも次々に台風が発生しては日本にやってまいります。

大阪はこれまでいくとどなく台風の被害を受けてきました。4年前の台風21号でも暴風で停電したり、家が壊れた経験のある方も西淀川区には多いのではないのでしょうか？実は4年前のその時、皆様の見えないところで大変な事が起こっていました。

皆様は「高潮」という災害をご存知でしょうか？これは台風によって吸い上げられた海水が暴風によって陸に吹き寄せられる現象です。こうして膨張した海面が堤防を越えてしまい大規模な浸水が発生してしまいます。

4年前の台風21号はその高潮が過去最高の潮位を記録しました。膨張し、吹き寄せられた海水が今にも堤防を越えそうな状況だったのです。

そんな西淀川区のピンチを救ってくれたのは「防潮鉄扉」です。

大阪は過去も幾度となく台風とそれに伴う高潮の被害を受けてきました。その分、大阪を水害から守る災害対策は

目を見張るものがあるのです。「防潮鉄扉」はそんな対策の一つです。西淀川区は7メートルをこえる堤防に常時守られています、橋や線路があるところは堤防が低くなっています。高潮や津波がやってきた時、「防潮鉄扉」を閉める事で堤防の高さを確保し、浸水を防ぐのです。

「防潮鉄扉」は普段堤防の脇に格納されており、レールの上を移動させて閉鎖するものや鉄扉が180度回転し、閉まる陸側(国道2号線淀川大橋にあります)と呼ばれるものもあります。

実は筆者も水防団の1人ですが、現在、同じ水防団員の方でも祖父より年下の方に会おうのが珍しいほど高齢化が進んでおります。これを読んでくださっている同世代(20代)の皆様、同世代がいなくて寂しいです、、、ぜひ、、、入団をご検討ください(切実)。



多田 裕亮(ただ ひろあき)
防災士。明石工業高等専門学校在籍時から防災団の立ち上げに関わり、防災ゲームを開発。大学進学後は「大阪防災プロジェクト」を設立。淀川右岸水防団に所属。



忙中 一筆



岸本 景子(きしもと けいこ)
映画監督。大阪府出身。西淀川歴14年。
自身の映画制作と子どもたちの映画
ワークショップも行なっている。

映画に慣れ親しむきっかけは幼いころ父が週末に映画館に連れて行っ

映画と夢と

私はいま、アルバイトとしてあおぞら財団でお世話になってます。今年の【みてアート2022】のクロージング企画として上映される西淀川区が舞台の自身の監督作『家族の肖像』の撮影時に役者が泊まる宿として【姫里ゲストハウスいこね】をお借りしたことが縁で、いろいろなお話しをする機会がありました。そのなかで、映画といえど、小さな規模のものでほとんど自分で撮影の準備していて、その期間中は、仕事に入ることができずに映画と仕事との両立で悩んでいることもお話しした時に「映画の時期は、それに専念したら良いから、うちで働いてみない？」と、声をかけていただいたことがきっかけでした。

私にとって映画という夢は生きる原動力でした。子どもたちにも、もっと映画を身近に感じてもらえるために映画づくりのワークショップもしています。そのときに、「夢は何ですか？」と子どもたちに尋ねるようにしています。そうすると「夢をみたって、どうせ叶わないでしょ？」と多くの子どもたちは答えます。それを聞いた時は、とてもショックだったのですが、きっと子どもたちが夢を見られないような社会を私たち大人が作ってしまっているのかも知れない

子どもたちと

てくれたことでした。いつしか映画の道に進みたいという思いが強くなり、映画づくりを学ぶ専門学校に入ります。そこでは毎日仲間たちと語らい映画に明け暮れる日々を送りました。しかし卒業を機に、就職やUターンで映画作りを共にした仲間たちがバラバラになり、また自身も燃え尽きてしまい、引きこもりを経験します。映画を諦めて25歳の時に大学に入り全く違った分野を学ぶのですが、やはり諦めきれずに32歳のときに再び映画に戻り今に至ります。

と思いました。そしてその大人たちも仕事に追われるなかで夢を語る余裕さえもなくしているのかも知れないと。

子どもたちが 夢を見られるように

前述した、『家族の肖像』のみてアートの上映は、高校生以下の学生を無料としています。それは夢に向かって歩む大人たちの姿、そして映画という芸術を身近に感じてもらえることで、子どもたちの心に少しでもゆとりが生まれたら良いなという想いからです。

いまは子どもたちには映画の内容が少し難しかったとしても、きっと何か記憶に残り、未来にまた繋がると信じています。



西淀川区が舞台の新作映画『家族の肖像』がみてアートの2022のクロージング作品として上映予定。
2022年11月6日18:30～マルモット区民ホールにて。
前売800円 当日1,000円。高校生以下無料。
お問い合わせはあおぞら財団にて



エコミューズ館長：小田康徳

1970年代初頭

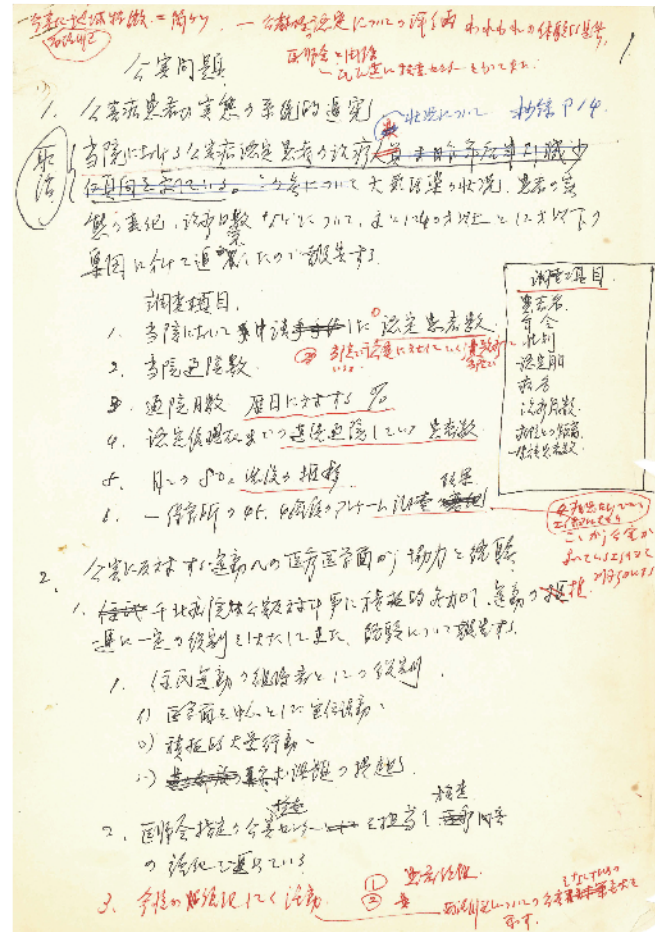
行政が対処する問題として西淀川の公害にメスを入れる

大阪市西淀川区がいかにかひどい公害地域となっていたか、1950年代後半から多くの人を知るところとなっていた。悩みに堪えかね、汚染を重ねる大阪製鋼・田中電機・永大産業など個別企業を厳しく追及したことも少なくない。調査すれば、さらにいろいろ出てくると思う。しかし、それを国や府の政策の問題として位置付け、住民の声、公害患者の声をまとめ上げ、適切な処置を求める動きとするのは1970年代初頭以降のことである。

写真は、当時千北病院公害被害者検査センター検査技師だった田中千代恵氏を書き上げていた研究メモである。ここには「公害問題」と題を掲げ、その下に「公害病患者の実態の系統的追究」として、『当院における公害病認定患者の治療数』『大気汚染の状況』『患者の実態の変化』『治療日数』などについて、主として40歳以上と12歳以下集団に分けて追究したので報告する」といった文章があり、つづけて統計数字がたくさん記されている。また、大阪府や市の公式報告書からも必要な情報を抜き出している。まさに、西淀川に即した事実の解明がどう行なわれたかを記録する資料群と言っている。文字は達筆で、かつ丁寧、正規の報告書に掲載する前の原稿といった趣である。

田中千代恵氏が千北病院を基盤にこうした調査を丁寧にやり始めたきっかけは、1969年12月公布の「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法」の実施において認定患者数が日本一の記録を常に更新し続け、1960年代半ば以降の全般的なSO₂の排出量減少にもかかわらず、ぜんそくなどで苦しむ患者が減っていかないという西淀川区あるいは大阪市の現実に危機感を抱いたからにほかならない。1972年7月の四日市公害裁判判決からも大きく触発されたことも指摘されている。

ただ、西淀川公害に関するこの時期の研究は、眼前に展開する公害という問題に対処するためには、あくまで調査を重視し、それを踏まえ、自分の頭で理解を深めることが



(田中千代恵氏資料No.26)

重要と考えるものでもあったことを示している。いま改めて考えるのであるが、このことこそが、1970年代後半からの西淀川公害裁判の準備から始まり、その後の長い年月にわたった患者さんや住民の運動を支える思想的土台となっていたものであろう。

田中千代恵氏の資料には、こうした調査を基礎としてこの時期組織され、急展開する住民組織「西淀川から公害をなくす市民の会」と患者さんたちの組織「西淀川公害患者と家族の会」に関わる記録がたくさん存在している。



西淀川・公害と環境資料館
エコミューズ利用のご案内

公害や西淀川地域に関する図書や、西淀川公害公害裁判資料、弁護士や患者会・住民運動などの写真や資料等を所蔵しています。ぜひ一度、お越しください。

◆利用案内

開館時間：月・金曜日 10:00-17:00

web: <http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>



龍谷大清水ゼミが西淀川で活動開始！

龍谷大学政策学部清水万由子先生のゼミが、西淀川をフィールドにしてゼミ活動を行うことになりました。あおぞら財団の活動に参加して、公害の歴史を今後のまちづくりに活かすことを目標にしています。

●グループワークで「西淀川公害を体験的に学ぶ」

8月2日には龍谷大学にて、フォトランゲージ「西淀川大気汚染公害」、ロールプレイ「あなたの町で公害が起きたら」の2つのワークを行いました。フォトランゲージは、大気汚染の写真にタイトルを付けるワーク、ロールプレイは市役所、住民、工場経営者、医者などの役割になりきって、お芝居をしながら違う立場の者同士で意見交換をしながら解決策を探るワークです。この日の振り返りでは、「それぞれの立場に立って考えることが大切」、「解決に向けて誰かを悪者として決めつけないことを心がけたい」といった感想が出ました。



写真から様々なことを読み取りタイトルを付けます

●西淀川の今を五感で感じるフィールドワーク

9月5日には、西淀川でフィールドワークを行いました。最初にタンデム自転車で、大気汚染公害が起きた現場を五感で感じてもらいながら、西淀川をめぐりました。次に、西淀川公害の概要についてお話した後に、公害患者の岡崎久女さんのお話を聞いてもらいました。岡崎さんはご自身だけでなくお子さんもぜん息に罹患し親子で発作に苦しんだこと、重責発作のため仮死状態で救急搬送されたことなど、大変な経験を話してくださいました。ゼミ生はそれを真摯に受け止めて、「青い空が当たり前じゃないなんて考えたことがなかった」、「洗濯物を外に干すと黒くなるなんて想像つかない」との感想を漏らしていました。



タンデム自転車でフィールドワーク

●「アート」、「映像」、「防災」の3つのグループに分かれて活動

清水ゼミは、「アート」、「映像」、「防災」の3チームに分かれて、西淀川で活動して行くことになりました。ゼミ生が西淀川でどのようなことを学び、西淀川での出会いがどのような変化を生み、どのような成果を生むのか、ご期待ください。📍



公害患者さんのお話を聞きました

あおぞら財団 教育・研修事業のご案内

あおぞら財団では、西淀川の公害の解決に取り組んだ貴重な経験をもとに、環境と人権を重視したSDGs時代の学びをコーディネートします。

◆西淀川フィールドワーク

西淀川公害裁判を経て、公害対策が進められた地域を歩き、青空をとりもどした西淀川の「今」を体感します。公害患者をはじめ、元企業の担当者、行政、弁護士などの多様な語りをコーディネートできます。

〈プログラム料〉1時間/10,000円(ガイド2人随行を基本)

◆講演・出張授業

公害患者の出前授業や、財団研究員による講演・ワークショップも承ります。

〈お問い合わせ〉あおぞら財団 webmaster@aozora.or.jp

あおぞら広場

ありがとうございます

(2022年4月～8月 敬称略・順不同)

●お助け ボランティア

MOKU

渡辺 哲敬
岡崎 久女
山下 晴美
佐々木 真弓
岡村 裕成

●寄附・寄贈者

内田 寛 鎌形 浩史
古賀 崇 寄付者ニックネーム Y
高田 研 宮本 憲一
中島 晃 金谷 邦夫
中村 昌史 鷺坂 長美
新田 保次 山崎 義郷
八丸 久美子 城山 和則
早川 光俊 脇田 武利
松村 暢彦 澤田 佳宏
村松 昭夫 あおぞら市の皆さん
吉田 巖 他匿名希望1名
逢坂 隆子 小田康徳
一柳 正義 全国公害弁護団連絡会
奥村 昌裕

あおぞら財団 寄附のお願い

日ごろより、あおぞら財団の活動にご支援とご協力を賜りありがとうございます。みなさまからの大切な寄附を私たちの活動に役立ててまいります。
お振込み以外にも、オンライン寄付サイト「Give One」からはクレジットカード決済での寄附も可能となっております。ぜひ、ご活用いただけますと幸いです。

●オンライン寄付サイト Give One(ギブワン)

<https://giveone.net/>

クレジットカード決済・ページをお選びいただけます。
「あおぞら財団」で検索してください。

スタッフツイッター 編集後記



人間は太古の昔から地球に大きな影響を与えているそうです。たとえば8,000年前にはCO₂濃度が上昇、原因は人口増加に伴う森林伐採。5,000年前にはメタン濃度が上昇、原因は農耕で、無自覚に氷期を回避したのではないかとのこと。今の気候変動はどうなっていくのでしょうか？

りべら No.160 2022年10月号(年3回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:谷内 久美子

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)バード・デザイン/ハウス

会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



あおぞら財団
The Aozora Foundation
公益財団法人公害地域再生センター

インターン生の声

今回のインターンでは、みてアート(キャンパスチャレンジ03)と資料館に関するところを中心に、実習に10日間参加させていただきました。私は現在大阪経済大学に通っているのですが、過去に西淀川区で起きた公害について全く知りませんでした。あおぞら財団では、そのことを知ってもらい公害のない地域にするために様々な活動を行っていました。資料館での活動では保存されている裁判資料の目録を作ったり、資料集作成のための編集会議に参加させていただいたりしました。また、キャンパスチャレンジ03では受付などをおこない、子どもたちの生き生きとした様子などを感じることが出来ました。

みてアートや資料館での実習を通して、あおぞら財団では様々な人が関わり合って活動しているのだと感じました。そして、これまで以上に地域での問題や活動に目を向けていきたいと思いました。



もり なつこ
森 夏子

(大阪経済大学3年)

「りべら」に広告を掲載しませんか？

年3回発行の「りべら」は、あおぞら財団会員様をはじめ、西淀川の公共施設・店舗など、様々なスポットに配布しています。あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からの広告の掲載を募集中です。

【りべら広告掲載費】

中面1/9頁: 1万円/回、中面1/3頁: 3万円/回、中面全面: 9万円/回
※お問合せ先:あおぞら財団まで TEL06-6475-8885

西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～

【廃油回収量】
総合計 58,766ℓ
(2009年7月から2022年9月まで)

2021年度 3,440ℓ
2020年度 3,043ℓ
2019年度 3,376ℓ
2018年度 3,834ℓ
2017年度 4,491ℓ
2016年度 4,123ℓ
2015年度 5,823ℓ
2014年度 7,064ℓ
2013年度 7,344ℓ
2012年度 6,472ℓ
2011年度 3,986ℓ
2010年度 2,509ℓ
2009年度 1,517ℓ

現在西淀川区内外約50箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。

エコでつながる
西淀川推進協議会
事務局:浜田化学株式会社
06-6409-1555

広告

ディサービスセンター

あおぞら苑




あおぞら御膳

あおぞらの湯

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : <http://aozoraen.com/>
運営: 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和5丁目7番14号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

広告

調理後の油を 無料で回収します！



50年以上の実績で、
一滴残さず再び資源にリサイクル
資源循環でSDGsに貢献します！



浜田化学株式会社

● Hamada Kagaku ●

まずはお気軽にお電話ください！
TEL 06-6411-3457



@hamadagakaku

広告

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中！

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

・西淀病院
・のざと診療所
・千北診療所

・ファミリークリニックあい
・姫島診療所
・ファミリークリニックなごみ

・介護老人保健施設よどの里
・在宅総合センターらくらく
・社会医学研究所

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設



公益財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp